

カトリック

# 広島教区報

No. 113

カトリック  
広島司教区

発行責任者  
広報担当  
服部大介神父

「点訳版」あります。  
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42  
広島司教区内  
TEL (082) 221-6017

司教メッセージ・じゃけえのう・教区の動き  
殉巡ネット  
世界平和記念聖堂関連・平和行事案内  
前田枢機卿叙任・J-CaRM  
地区・海峡からの風・青少年・ひと粒

一〇二面  
三面  
四面  
五面  
六〇八面

## 「福音の喜び」を伝えるために

広島教区長 アレキシオ 白浜 満 司教



白浜満司教

### 教皇フランシスコ使徒的勸告『福音の喜び』に応えて

は、教皇フランシスコの『福音の喜び』をよく学び、黙想し、教皇フランシスコが勧告しておられる事柄を、教区、小教区、修道会、そして、わたしたちの日常生活の中で、具体的に実行に移す努力を続けて参りましょう。

### 福音宣教する教会の模範

広島教区においては、今年（二〇一八年）度、「全世界に行つて、すべての造られたものに福音をのべ伝えなさい」（マルコ十六・十五）というイエスの命令を思い起し、教会の「福音をのべ伝える使命」を振り返りながら、種々のチャレンジに取り組んでいます。この教区の目標は、教皇フランシスコが二〇一三年十一月に公布した『福音の喜び』に呼応するものです。わたしたち

二十一・五）。この約束に信頼をもって、マリアとともに歩みましょう。」

そして、聖母マリアを

「新たな福音宣教の星」と呼び、その模範を示して、次のように勧めています。

「福音宣教という名のこの巡礼には、不毛のときも、結果が表れ出ないときもあり、かなり疲れてしまうこともあります。それは、ナザレでイエスが成長するまでの間、マリアがナザレで過ごした年月のようなものです。そこには、すでに福音、つまり、よい知らせ、うれしい便りが始まっていました。しかし、この福音の始まりの中にはある種の心の苦悩が見られます。：マリアはまた注意深く『これらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた』（ルカ二・十九）かたでもあります。：マリアは、世においても、歴史においても、一人ひとりの、

## じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

今年度より、平和の使徒推進本部に勤務しております。よろしく願いました。

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

「社会司牧アスク」という名前もいたっています。「社会司牧ゆうて、なんのことかいね?」と言われることもありませんが、最近、フランシスコ教皇の使徒的勸告『福音の喜び』に書かれていることが問いかけになると感じています。

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

例えは・・・

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

「時にわたしたちは、主が受けた傷から用心深く距離を取ったキリスト者であろうとする誘惑を感じる場合があります。しかしイエスは、人間の悲惨に触れ、苦しむ他者の身体に触れるよう望んでおられます。人間の悲劇の中心からは離れた避難所を個人や共同体に求めることのないよう、そして、実際に他者と接していたわりの力を知るよう期待しています。それを実行すれば、わたしたちの生は多彩で、つねにすばらしいものとなる。」

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

「福音の喜び」は私たちを励ます書です。ぜひご一読を・・・

（シスター 古屋敷一葉）

そしてすべての人の日常生活においても、神の神秘を  
観想されます。マリアは、  
祈りかつ働くナザレの女性  
であり、すぐに動かれる聖  
母、人に手を貸すために自  
分の村から『急いで』（ル  
カ一・三十九）出掛けるか  
たです。正義と優しさの  
力、観想と他者に向けて歩  
む力、これこそがマリア  
を、福音宣教する教会の模  
範とするのです。」

第二バチカン公会議にお  
いて、すでに教皇パウロ六  
世は、このような聖母マリ  
アを、「教会の母」と呼  
び、そして教皇フランシス  
コは、今年から「聖霊降  
臨」の翌日の月曜日を、  
「教会の母聖マリア」の記  
念日として祝うように、全  
世界の教会に向けて通達し  
ました。

**世界平和記念聖堂に寄贈  
されたファティマの聖母像**

昨年、聖母マリアがファ  
ティマで出現されて百周年  
に当たることを記念して複  
製されたファティマの聖母  
像（木製）が、日本に駐在  
する教皇大使の意向で、広  
島教区の「世界平和記念聖

堂」に寄贈されたことを、  
昨年十月の『広島教区報』  
一一〇号でお知らせしまし  
た。その時から、寄贈され  
たファティマの聖母像を、

「世界平和記念聖堂」のど  
こに安置すべきかというこ  
とが一つの課題とされてい  
ました。聖堂内に「同一の  
聖人の聖像や聖画は、通  
常、二つ以上置かないよう  
にする」（『ローマ・ミサ  
典礼書の総則』三百十八  
番）という教会堂の装飾に  
関する典礼法規に従い、教  
区の司祭団、司教顧問会、  
聖堂保存活用委員会、幟町  
教会等の関係者の意見を踏  
まえて、今まで祭壇に向  
かって右側の脇祭壇に置か  
れていた聖母像と入れ替  
え、従来の聖母像は廿日市  
にある広島教区の共同墓地  
に移転することにしまし  
た。慣れ親しんできた従来  
の聖母像を移転し、寄贈さ  
れたファティマの聖母像  
を、その代わりに安置する  
ことに、皆さんのご理解を  
お願いしたいと思います。

**「平和の使徒」と**

なるために  
ファティマで出現された

聖母マリアは、三人の牧童  
（フランシスコ、ヤシン  
タ、ルチア）に世界平和の  
ために祈るようメッセージ  
を残されました。原子爆弾  
の悲惨さを訴え、世界平和  
を祈念するために建てられ  
た聖堂をカテドラル（司教  
座聖堂）として祈りと活  
動を続けるわたしたちは、  
イエス・キリストがもたら  
してくださった「福音の喜  
び」を、力強く人々にのべ  
伝え、世界平和に貢献でき  
るように、聖母マリアの模  
範に倣い、その取り次ぎを  
願いたいと思います。そし  
て、このような祈りと活動  
の一環として、十月に行  
われるファティマへの巡礼  
準備のために、今、広島教  
区の皆さんに呼びかけてい  
るロザリオの祈りの霊的な  
花束へのご協力も、よろし  
くお願いします。十月十二  
日と十三日にファティマで  
司式するミサと聖母行列を  
通して、世界中の巡礼団の  
方々と心を合わせて、「平  
和の使徒」としての使命を  
果たすことができるよう  
に、引き続きお祈りくださ  
い。

**教区の動き**

**平和の使徒推進本部**

**（二〇一八年度（第一回）広  
島司教区宣教司牧評議会開  
催）**

去る六月九日（土）、  
二〇一八年度第一回広島司教  
区宣教司牧評議会（以下、教  
区宣司評）が、広島カトリッ  
ク会館多目的ホールで開催さ  
れ、白浜司教、司祭、修道  
者、信徒の二十六人が出席し  
た。

本教区宣司評は、昨年度か  
ら土曜日の開催に変更した  
が、当日の夕方のミサのため  
に途中退席する司祭がおられ  
た。そのため今回から開始時  
間を一時早め、十二時半か  
らの開催とした。

教区宣司評は、白浜司教の  
挨拶と祈りから始まり、おも  
に次のことが話し合われた。  
議題は二〇一八年度から導  
入された「協働体制」につい  
て、既に配布された司教書簡  
をもとに、様々な機会を確認  
して頂くよう白浜司教からお  
願いがあった。

続いて本年度から開始した  
「カテキスタの養成」につい  
て、趣旨、現在の状況、今後  
の取り組みなどが白浜司教か  
ら説明されたのち、意見交換

**平和の使徒となろう**



**平和の使徒推進本部**

がおこなわれた。本件は今後  
もカテキスタ養成委員会の中  
で、時間をかけて具体的に検  
討し実施していく。

続いて議題は、教区創立百  
周年に向けて

①「聖書の書き写しリレー  
」（今秋から開始予定）の  
実施内容の説明、意見交換  
後、実施することで合意し  
た。詳細については、地区  
センターを通じて各小教区  
へ連絡する。内容に関する  
問い合わせは平和の使徒推  
進本部へ。

②「聖書通読・写経キャン  
ペーン」（既に四月から各  
小教区に配布済み）の状況  
説明があった。要請があれ  
ば説明に向くことも可能。  
内容に関する問い合わせは  
平和の使徒推進本部  
（Sr.古屋敷）まで。

③「教区創立百周年記念行事」(二〇二三年)について、具体的に、いつ、何をを行うのか、また、これからの広島教区の方向性を示すものとなるよう、意見を収集し、検討していくことを申し合わせた。

④二〇一九年度「隣人に仕える使命」に向けて、まずはボランティア活動グループの実態を把握するためにアンケートを実施することについて説明があった。

⑤二〇二〇年度から二三年度「社会へのチャレンジ」のサブテーマについて、白浜司教から案として、「分野別」・「姿勢」・「地理」を意識して検討する予定であるとの説明があった。教区全体でテーマを決めるため、各地区の意見を集約して欲しいとのこと。

続いて議題は、世界平和記念聖堂保存活用委員会より、「保存活用委員会規約」の改定について説明があり、評議員の決議により可決された。

教区宣司評の後半は、各地区・ブロック、修道女連盟からの報告、出席した評議員から色々な報告、その他諸連絡があった。

以上のことが話し合わせ、

祈りと祝福のうちに三時間の教区宣司評を閉会した。

**【平和の使徒推進本部からのお知らせ】**

聖書通読・写経キャンペーンにご協力いただき、ありがとうございます。新しく通読のグループを作られた小教区、全体で写経に取り組まれている小教区など、キャンペーンをきっかけに始まった新しい取り組みの報告も受けております。



写経に取り組む信徒 (防府教会)

少しずつ、平和の使徒推進本部のニュースレター「GAUDETE」でもご紹介していく予定です。また、外国籍の信徒の方々にも取り組んでいただけるよう、多言語のチェックシートも準備していきます。

これを機に、教区の皆さまに、少しでも聖書に親しみ、神さまからの呼びかけに耳を傾ける時間をもっていただければ幸いです。

**広島教区列聖委員会から  
広島教区列聖委員会  
服部大介神父**

津和野乙女峠祭りの前日(五月二日)に、浦上四番崩れ流配地連絡会を、広島教区が主催して山口市内のホテルで開催しました。浦上四番崩れでキリシタンが流配された、六教区(名古屋、京都、大阪、高松、広島、鹿児島)と長崎教区・浦上教会の代表者たちが約三十名集まり、それぞれの地域で起こった出来事やその顕彰の取り組みの報告



浦上四番崩れ流配地連絡会に参加したメンバー

た。あいにく大阪北部地震の発生により、参加を予定されていた大阪教会管区(広島教区を除く)の司教様方はすべて参加できなくなりましたが、時間を遅らせたりミサの前に「津和野の証し人」の朗読劇を行うことができ、参加された方々に流配の状況を分かりやすく

を聞くことができました。流配一五〇周年という機会に、関係教区と共にこの連絡会のネットワーキングづくりを目指し、流配先で亡くなられた方々の代表として津和野乙女峠の証し人の列福を進めていくことに理解を示して頂きました。

また六月十八日(月)に、大阪教会



「津和野の証し人」朗読劇の様子 (世界平和記念聖堂)

理解してもらえることができたように思います。

これらを含めた「明治初期・津和野乙女峠の証し人」の列福運動を踏まえて、今年七月の臨時司教総会に、広島教区で列聖調査を開始する許可願いを提出し、やっと承認されました。この承認をもってすぐ白浜司教は七月十八日に、バチカンの列聖省に列福申請書を提出しました。これからいよいよ本格的な列福調査が始まります。お祈りください。

### 重要文化財 世界平和記念聖堂 保存修理事業が進む平和記念聖堂

司教座聖堂「世界平和記念聖堂」の保存修理事業は、教区に設けられた「保存活用委員会（委員長、白浜司教）」の事業推進管理のもとに進められている。二〇一六年十月着工以来、今日まで一年半余りが経過した。この間、鐘塔や聖堂入口にある階段室の耐震補強工事、祭壇のある内陣天井の改修、外壁のコンクリート劣化対策、銅板屋根の葺替え、堅樋の補修、ステンドグラスの劣化補修、鋼製窓枠の補修工事などを実施してきた。今年度は、聖堂記の劣化した文字の修復、補修したステンドグラスの復旧、照明器具及び電気配線等の電気設備工事、冷暖房設備の新設工事、聖堂の内壁補修などが予定されている。更に、文化庁から追加で予算が認められたステンドグラス窓周辺の外壁からの漏水対策、地下聖堂の湧水対策などを行う。地下聖堂の湧水対策は、地下聖堂の外周の土砂を掘り起こし、土中の水が地下の壁に浸透しないよう防水処理を施す計画である。これまで地下聖堂に足を踏み入れることができないほど

ど床上に浸水することもあった。これで長年の課題が一つ解消される。これらの工事により予算増となるが、建物を長期に維持保存してゆくために必要な工事である。これらにより、二〇一九年十二月まで工期が九ヶ月ほど延長する。信徒の皆様には、ご不便、ご迷惑をお掛けしますが、引き続きご理解、ご支援ください。

記念聖堂には、工事中にも関わらず多くの人々が来堂されている。広島平和資料館（昨年の見学者数は、百六十万人で、うち外国人四十万人、修学旅行団体三十三万人）とは施設の性格や立地条件から単純にその数だけを目標にすることはできないが、多くの人を聖堂に招き、献堂の由来や存在の意義などを伝えたい。重要文化財は、文化財保護法で可能な限り保存修理し、その意義や価値を後世に残し、公開活用するよう義務付けている。カトリック教会に集う私たち一人一人が記念聖堂を通して、キリストの平和を学び、多くの人々にその意義を



広島平和資料館エントランスにある平和アピールの石碑

宣べ伝えて行くことも大切なミッションである。広島平和記念館のエントランスには、ヨハネ・パウロ二世の平和アピールの石碑が置かれている。記念聖堂にもヨハネ・パウロ二世の来堂を記念する銅像がある。また、記念聖堂の周辺には、原爆を体験した流川教会などのキリスト教関連施設も立地している。これらの平和の証人となる多くの施設と連携して、キリストの平和が実現されるよう記念聖堂を保存活用して行きたい。

### 世界平和記念聖堂募金 郵便振替口座

口座名義：カトリック広島司教区

口座番号：01320-3-109791

\* 通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

### 2018平和行事

8月5日のプログラムでは、ピースボート代表、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員、川崎哲<sup>あきら</sup>さんの基調講演がエリザベト音楽大学セシリアホールで行われます。

6日には、世界平和記念聖堂で被爆米兵捕虜を調査し、オバマ前大統領に伝えた人として知られる森重昭<sup>あきら</sup>さんの映画上映とお話があります。

**2018 平和行事**

**What I CAN do for PEACE**  
平和のためにできること

**8月5日(日) 13:00~**

基調講演  
「核兵器をなくすためにできること」川崎哲さん  
被爆証言(朴南珠さん)  
福島の現状「広島教区災害サポートセンター報告」  
青年プログラム「Peace Café」  
大型紙芝居「戦争ってなぜ起こるのしょうね」  
憲法について「それでも、やっぱり9条」  
祈りの集い(平和記念公園原爆供養塔前)  
平和行進(平和記念公園~世界平和記念聖堂)  
平和祈願ミサ/テゼの祈り!

**8月6日(月)**

宗教者平和の祈り  
(平和記念公園原爆供養塔前)  
原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ  
映画「Paper Lanterns」と講演会  
森重昭さん  
ピースウォーク  
スピリチュアルコンサート

**8月9日(木) 11:00~**

長崎原爆犠牲者追悼ミサ(地下聖堂)

**8月9日(木)~11日(土)**

長崎平和祈願ミサ・天草巡礼(事前申し込みが必要です)

**8月5日(日)~6日(月)「沖縄写真展」**

場所：エリザベト音楽大学セシリアホール  
世界平和記念聖堂、韓町教会他

カトリック広島司教区・平和行事実行委員会  
世界平和記念聖堂・カトリック韓町教会  
広島市中区韓町4-42 TEL 082-221-6017 FAX 082-221-6019




マップ プログラム

\* 手話通訳付き

前田大司教は枢機卿に  
4人の司教が任命される

教皇フランシスコは、五月二十日に大阪教区前田万葉大司教を枢機卿に任命し、六月二十九日バチカンの聖ペトロ大聖堂で行われた枢機卿会議で前田大司教を含む十四人を新しい枢機卿として叙任された。また、教皇は、六月二日、約五年間司教座空位であったさいたま教区の司教にサレジオ修道会の山野内倫昭神父を、大阪教区の補佐司教にクラレチアン宣教会のホセ・アベイヤ神父とオプス・デイの酒井俊弘神父の二名を、七月七日には鹿児島教区の司教に鹿児島教区の中野裕明神父をそれぞれ選任した。大阪教区では、枢機卿親任感謝ミサと補佐司教叙階式が七月十六日(月・祝)に大阪力テドラル聖マリア大聖堂で行われた。さいたま教区の司教叙階式は九月二十四日(月・祝)に浦和明の星女子中学・高等学校ジュービリーホールで、鹿児島教区の司教叙階式は十月八日(月・祝)に宝山ホールでそれぞれ行われる。

皆様方の更なるお祈りとご支援を

この度の枢機卿親任は、わたしにとつてまさに「青天の霹靂のごと降臨祭」でした。何の前触れも

大阪 前田万葉 枢機卿



なく、突然発表されびつくりし、戸惑いました。

しかし、「父と子と聖霊の業や聖母月」と割り切り、「神様が選任なさったなら、その力もあたえて

くださるはずだ」と確信し、聖母マリア様にご保護を祈ることにしました。発表の日が聖霊降臨祭であり、正式に伝え聞いたのが、新しく制定された「教会の母聖マリア」の日だったからです。

そして今、み心月にあたり、玉造司教座聖堂のザビエルと右近が描かれたステンドグラスの前で「ザビエルと右近にすぎるみ心月」とザビエルと右近に倣い神様のみ心になうことが出来そうです。来ますようにとすがる心境です。

六月二十八日の親任式とフランシスコ教皇様と共にささげる二十九日のペトロの祝日ミサで



(c) SERVIZIO FOTOGRAFICO - VATICAN MEDIA

教会スタンプラリー完了

- 第0037号 岩城 薫 (玉野教会)
- 第0038号 東 春美 (幟町教会)
- 第0039号 飯國 清 (幟町教会)

は、改めて「おことばですから網を降ろしてみましよう」(ルカ五・五)と初心に帰り、聖ペトロの取次ぎを願いたいと思います。親愛なる広島教区の皆様方の更なるお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

J-CaRM 広島便り  
ユニティー岡山鳥取からの報告

出生率の低下に歯止めがかからず、高齢化社会が加速的に進む一方の社会にあつては、需要と供給の原動力である日本人労働力が低下することで経済活動に衰退の兆しが現れて当然のように思われますが、相変わらず日本経済は世界トップクラスの規模を維持しています。ではこの日本の労働力低下という負の部分を支えているのは何かを考えてみると、経済のグローバル化、IT技術による効率化や新しいビジネスの仕組みが次々と提案されていることなどによると思われますが、もう一つは若い外国人労働力の存在だと思えます。

外国人研修生や技能実習生は近年増加の一途をたどっており、受入人数の上位五か国を挙げると一位がベトナム、次に中国、フィリピン、インドネシア、タイと続きます。私どもの岡山地区も例外ではありません。豊かな日本に来て在留資格の名の下に働き、故郷で待つ父母兄弟を支えるために送金し、努力次第で永住権も得られることを夢見る若者たちが、確かに日本を支える労働力の一部になってきていると考えられます。

しかしながら彼らが働く現場では、法規制が及ばないところで彼



日本で働く若いベトナム人たち

らの人権が無視されたり、法制度の利点が彼らに行き届かないことが起こる場合があります。日本の法制度は平等に彼らの人権も保証しているわけですから、その恩恵が彼らに行き渡るよう、私たちは努力すべき立場にあると思います。そこで現在岡山地区で力を入れている取り組みは、年金脱退一時金制度(彼らが年金制度に加入した際の掛け金が、帰国後に返還される制度)に対する手続きを定着させる取り組みです。三年間働いた人で帰国後に受け取る額は約四十万円前後になり、彼らにとっては家族を支えるための、非常に重い価値のある労働の果りです。現在はベトナム人の若者を主な支援対象としていますが、今後は他の国籍の若者をも支援できるように、また彼らの手元に百パーセント直接返金されるための対策など、手続きのノウハウも蓄積されてきていますので、支援の幅を広げることができればと期待が広がります。

地区便り

山口島根地区

※第一九回「キリシタン至福の里中山地区祈念地ミサ」

本年で一九回目を迎えたキリシタン至福の里中山地区祈念地ミサが五月十九日(第三土曜日)現地で行われました。当日は天候にも恵まれ、山口・島根地区小教区から信徒七十名、ほか萩市紫福支所長、萩市観光協会、当地住民の方々と共に午前十一時から萩教会恩地神父様の司式のもとにミサが執り行われました。



キリシタン至福の里中山地区祈念地ミサ

ミサ後は、当地区老人会の皆さんが作られた弁当を参加者全員でいただき感謝のうちに楽しい一日を過ご

すことが出来ました。これからも地区の方々の協力をいただきながらキリシタン至福の里中山地区祈念地を守っていききたいと思えます。(至福会)

岡山鳥取地区

※鳥取、椿谷巡礼報告



鳥取市内にある椿谷で

五月は聖母月、周りの緑に癒されて巡礼が出来たことを神に感謝します。今年には教会でミサ後椿谷に向かつて巡礼が始まりました。出発して四十分くらいで椿谷に到着、殉教者を称えてお祈りを捧げました。山口道晴主任神父様のお話を耳をかたむけ感激しました。岡山から参加した濱口さんより四番崩れのお話を聞き、記念写真を撮り下山しました。

広島地区

※広島地区召命祈りの集い



白浜司教

去る六月末日に廿日市教会で「召命祈りの集い」が開催されました。

梅雨真つ只中の強雨にも関わらず百名弱の参加者があり、廿日市教会の皆様のお出迎えから行き届いた準備の中で過ごさせていただきました。

今回の講話では、白浜司教様から「二つのキャンパス一つの神学校」が今年度で閉校され「二つの神学校」へと体制が変わること、教皇庁聖職者省からの新しい綱要に基づき、神学生に予科(準備期間)と司牧期が加わ

海峡からの風 49

下関労働教育センターだより

ソウル編

この街を渡る風には歴史の香りがします。現在という時の中に悲しさも、痛みも、怒りもひっそりめけて過去が同居し、息づいているかのようです。今を生きる人々に銅像や博物館、石碑や歴史の建造物が生き生きと歴史の教訓を伝えていきます。その風に吹かれていると、日本人の歴史との向き合い方、日本における歴史の扱われ方との違いを感じざるを得ません。触れてはならないものを抱えて生きることは、個人としても、共同体としても不健全なことですが、日本にはあたかも「封印された過去がある」かのよう

に感じるのには私だけでしょうか。

他府県や海外から人々が広島を訪れる時、私たちは広島を知ってほしいと願います。資料館に足を運び、できれば世界平和記念聖堂をも訪れて全世界の平和の為に祈って欲しいと願います。だからこそ、広島に住む人は「自分の痛みを知ってほしい、そこから学

び、この痛みが二度と引き起こされることがないように行動して欲しい」と願う他の地域の切なる思いを理解できるのです。そして、「知る」との持つ意味を知る私たちなればこそ、明治以降の歴史の中で日本がアジアにおいて引き起こした加害の面についても、真摯に知る責任があるはず

です。広島教区が釜山教区、インファンタ教区と姉妹縁組を結んで一八年。とりわけ釜山教区からは協力司祭として何人も神父様が来日し、働いてくださったことが、働いてくださったことでしたが、私たちの韓国への意識、理解、歴史認識はどれくらい変わったでしょうか。

朝鮮半島での南北の関係が大きく変化しようとしている今、もう一度姉妹縁組をいただいていることに感謝しつつ、新たな出会いと学びの機会を創り出していきたいと願っている今日この頃です。(今回は三か月間ソウルに滞在中の山本が担当しました。)



白浜司教の話に熱心に耳を傾ける参加者

り期間が六年から七年半に延びること、召命学校や召命担当者、一粒会について詳しくお話をさせて頂きました。

分かれ合いや全体発表会の中で心に残ったことは、神学生の出身教会の方々が、それぞれ神学生の為に、ミサ前に召命の祈りを唱えたり、ロザリオの祈りのカードを作って祈ったり、祈りと同時に献金もしていますという教会もあり、なんとという親心！これこそ教区で支えあう家族愛だと感じました。

今年から地区召命促進担当の久保助祭様の挨拶の中に「召命という道を成功させる為には祈り続けていくかどうかということですか」というお言葉がありました。広島教区は二十年

近く司祭叙階のお恵みがない中でも、ずっと祈りと一粒会献金を続けてきました。そして今「豊かな恵みの時」を与えられたことに感謝をもって、私たちに出来ることとして、益々祈りと一粒会献金を続けていくことが、また新しい召命を生み出し神学生を支えることに繋がっていくのだと思えました。(福山教会星緑)

伯雲協働体

\*伯雲協働体の勉強会

六月二十四日、伯雲協働体の勉強会が松江教会でありました。これは教会に関わる色々な主題について米子・松江・出雲の三教会が交替で開いているものです。

今年「東アジアの和解と平和」をテーマに、下関労働教育センターの中井淳神父に講演していただきました。講話は、使徒トマスへの主の呼びかけに込めて、主の傷の内に今の私たちの傷・棘を合わせ、委ねるとい



松江教会の祭壇前で

テーマから始まりました。そして教皇フランシスコの『福音の喜び』から「外へ目を向けて出ていく」という、信徒使徒職の方向性を示すものでした。

最後に、講師と三教会の司祭、三十人余りの信徒によるミサがあり、外だけでなく教会内にも生じる「結び目」をほどこいて下さるよう聖母に祈りつつ、今日の豊かな恵みを感じました。(出雲教会 河上隆一)

**「平成30年7月豪雨」  
〈西日本豪雨災害〉  
広島教区内の被害について**

7月12日現在、断水が続いているところや、自宅への浸水・土砂の流入、損壊も入っています。被害報告も取れない連絡ができません。

教区内の様々な場所でもかなりの被害が出ています。皆様のご支援とお祈りをよろしくお願い致します。

教区本部事務局 服部大介

広島教区一粒会 (司祭養成後援会) について

日本のカトリック教会では、司祭の高齢化・減少が深刻な課題となっています。そのような中、広島教区は、トゥアン神父・猪口神父・ユン神父・ロイ神父に続き二〇一八年三月二十一日に山口サビエル記念聖堂で大西司祭叙階・久保助祭叙階のお恵みを頂きました。司祭が叙階される度に多くの信徒が祝い集りに、信徒、一粒会の皆様のお祈りと召命のめぐみを感じます。

どうぞ、あたたかい支援の言葉をかけてくださるようよろしく願いいたします。一粒会の活動へ、お祈りとご支援をお願いいたします。

◇広島教区では、一九八八年に一粒会が創設され、以来、司祭の召し出しと神学生の養成を目的に活動しています。外国から来る司祭、神学生候補者の日本語学習支援、また、召命の集い、召命学校の支援を通じて、若者に召命を考える機会を提供しています。

◇一人の司祭が誕生するには、最短六年間の養成期間と費用が必要です。神学生の学費、生活費、神学院の維持費のすべてが、会員の皆様の尊い献金によってまかなわれています。

◇新たな司祭の育成が急務である現在、神のみわざである召命を支えるためお祈りと献金を信徒の皆さまにお願いいたします。

現在、広島教区には五名の神学生が養成されています。彼らのために祈り、支援していただきたいと思えます。教区行事、練成会や夏期合宿のお手伝いで見かけたときは、

※詳しくは、各教会の一粒会委員におたずねください。

青少年の活動

司教と青年たちは出会い、そしてWaiWai語る4



六月二日〜三日に岡山県  
のノートルダム清心女子大  
学一宮校舎で、大阪教会管  
区司教団主催の「司教と青  
年たちは出会い、そして  
WaiWai語る4」が開催さ  
れました。

この企画は二〇一二年か  
ら一、二年に一度行われて  
います。司教様方が一緒に  
参加してくださるこの企画  
は、司教様方を身近に感じ  
ることができ、また青年た

ちがキリスト者としての生  
き方を見つめなおす良い機  
会となっております。

広島教区での開催は今回  
が初めての事でしたが、  
六〇人以上の参加者が集ま  
りました。

「主よ、何を望みです  
か」というテーマで、各教  
区の青年たちによるスピー  
チや質問タイム、講話、分  
かち合い等のプログラムが  
行われました。青年たちの



「聖霊の導き、

皆さんのお祈りによって」

淳心会

カシャーノ・バルトロメ神父

フィリピンのセブで  
二〇一八年一月二十七日  
に司祭に叙階されました。  
たたくさんのお祈りを  
頂いて心から感謝を申し  
上げます。初めて日本に  
来たのは、二〇一三年の  
秋の日でした。振り返る  
と、日本での豊かな宣教  
生活体験の四年半は、皆

さまと神さまの偉大な業の  
分かち合いのおかげのよう  
に感じています。誠実な信  
者さんたちが何年にもわ  
たつて日本のカトリック教  
会を支えてくださっている  
ことを学び、とても尊敬し  
ています。

広島カトリック会館に住  
む八人のコミュニティで一

番若いので、先輩の皆さん  
からお世話をしていたたく  
ことはとてもありがたいで  
す。貴重な笑いの分かち合

い、先輩からの貴重なお  
話、体験などを聞き、私の  
司牧生活に欠かせないもの  
となっております。

職町小教区の信者さんた  
ちは、私に対して忍耐と強  
い信仰を持ち、寛大である  
行動があるように学びまし  
た。人口と召命の減少は大  
きなチャレンジだと思いま  
す。しかし、私たちの数不  
足は、私たちが主からいた  
だいた寛大さと知恵によつ  
て支え合いたいと思いま  
す。

皆さんは私の宣教師とし  
ての歩みを、いつも支えて  
くださいます。心が落ち込  
んだときに、私を持ち上

スピーチの中では、もつと  
たくさんの青年たちと強く  
繋がりたい、社会から見捨  
てられている人達のために  
働きたいといった希望が多  
くみられました。また、そ  
れに応えるように司教様方  
からも講話がありました。

分かち合いでは、教区別に  
主の望みに対して何ができ  
るのか、司教様を交えて話  
し合いました。広島教区で  
は、アメリカ人とベトナム

げ、私が前進するように  
祈っていただいています。  
淳心会司祭として、この素  
晴らしい宣教生活の歩みを  
続けることによって、皆さ  
まのお祈りと愛に伝えてい  
きたいと思えます。職町カ  
トリック教会助任司祭とし  
て、広島教区にこの僕の  
ちっぽけな力を用いて頂き  
たいと思えます。

宣教師として成長する時  
を私に与えてくださって感  
謝しています。日々の私の  
仕事すべてが聖霊の導きに  
従うものとなりますように  
祈っています。

悲しみや苦しみは突然や  
つて来て、神様にその意味  
を尋ねてしまう時がある。  
この度被災された方々のた  
めにお祈り申しあげます。



分かち合いの様子

人の青年が参加してくれた  
こともあり、教会内で国籍  
別にコミュニティの分裂が  
起きている問題について、  
言語の壁を超えた一致のた  
めに具体的に何ができるの  
か話しました。  
主の望みを実現するため  
に、私たちがそれぞれの場  
所でキリスト者として働く  
ことができるよう、この集  
いが青年たちの中で種と  
なってくれるように願いま  
す。

(職町教会 長安まみ)



悲しみや苦しみは突然や  
つて来て、神様にその意味  
を尋ねてしまう時がある。  
この度被災された方々のた  
めにお祈り申しあげます。



(97)